

掲載日	区部等	件名	質問事項	回答
2019/7/26	土質区分	最大礫径について	<p>問1. 砂礫土(2)の最大礫径が砂礫土(1)以外と書かれていますが、具体的にどのくらいまで対応可能なのか教えていただきたいです。</p> <p>問2. 管径900mm、1000mm、1100mmの場合、礫径900mm以上発生するところは施工可能なのでしょうか。</p> <p>問3. 標準機についてですが泥水式、土圧式、泥濃式でどの工法のもを標準機としているのか、教えていただきたいです</p>	<p>回答1. 巻末参考資料に示すように、巨石・粗石径の長径を500mmと想定しています。それ以上の場合については、各工法協会へお尋ね願います。</p> <p>回答2. 施工の可否については協会ではお答えできません。問1と同様工法協会へお尋ね願います。</p> <p>回答3. 2013年改訂版の土質区分で掲載している”普通土”を対応する掘進機としています。</p>
2019/7/9	坑内配線	工事積算の際の仮設電力等について	<p>問1. 推進機への動力ケーブル、照明用ケーブル等について泥水式推進工法編・泥濃式推進工法編では「第5節 工種の説明」において、坑内作業工に「動力ケーブル、制御、照明用、通信ケーブル等の継ぎ買え作業等を含むものとする」との記述がありますが、土圧式推進工法編には電気通信ケーブルに関する記述がありません。土圧式推進工法でもこれらも含まれると考えてよろしいか？</p> <p>問2. 仮設電力等の材料費の計上について上記の動力ケーブル、照明用ケーブルについて、材料費は諸雑費に含まれると考えてよろしいか？それとも、別途材料費の計上が必要ですか？その場合、必要な材料の構成・数量等について3冊とも記述がないようですが・・・</p> <p>問3. 「継ぎ替え」という表記について、坑内作業に電力・通信・照明等のケーブルの継ぎ替え等の費用を含むようですが、「継ぎ替え」とはどのような作業をさしますか？</p>	<p>回答1. 土圧式推進工法編 2013年改訂版 P.158に同様に動力ケーブル、制御、照明用、通信ケーブル等の継ぎ買え作業等を含む内容を記述しています。</p> <p>回答2. 仮設電力の材料等については、国土交通省土木工事標準積算基準書 共通編の考え方を引用しています。ご質問の3編には記載がありませんが、推進工法用設計積算要領の超大口径管推進工法編 2016年版 には参考資料として掲載しています。</p> <p>回答3. 推進工法では管の内部に設置する電力線等は、管1本毎掘進完了後、次の管を接続するために一度切り離し、次の管の内部に通し替える必要があります。この作業を「継ぎ替え」と称しています。</p>
2019/7/4	日進量	施工での計画日進量に差異の発生と対応について	<ul style="list-style-type: none"> 土質による日進量と比べたと時に現場の日進量の進みが早くなることがあるのか。 日進量が変更になった場合 変更設計すべきか 	<ul style="list-style-type: none"> 2013年改訂版の図書では、標準日進量を掲載していますので、土質の性状により実稼働では差異が発生することは考えられます。 変更設計すべきかについては、当協会では判断することができません。